

兼六園 中期経営目標

(実施期間 平成30年度～平成34年度)

平成30年3月改定

1 施設の設置目的

特別名勝兼六園は、歴代の加賀藩主により、長い年月をかけて作庭され、江戸時代の代表的な林泉回遊式大名庭園の特徴を今に残しており、我が国の代表的な大名庭園として、また、明治7年の一般開放以降は県民の憩いの庭として、長きにわたって親しまれています。

この貴重な歴史文化的遺産を永く保全、継承し、国内外にわたる多くの方々にその魅力を堪能していただくことを目的としています。

2 施設の果たすべき役割

庭の国宝ともいふべき特別名勝庭園をより良い姿で、永く後世に引き継いでいくため、文化財庭園の保存に主眼を置いた手厚い管理、運営を行ってきたところであり、引き続き、庭園の保存に万全を期すための十分な管理、運営に努め、次世代へ継承していく役割を担っています。

また、本県を代表する観光拠点として、貴重な文化財庭園を四季を通してより多くの方に楽しんでいただくため、おもてなしの充実を図っていく必要があります。

3 事業内容

(1)庭園の管理

園名の由来でもある「宏大・幽邃」「人力・蒼古」「水泉・眺望」の「六勝の美」の保存、継承を最重点とする管理を行っています。

具体的な業務内容は、特別名木をはじめとする樹木の維持管理（剪定、施肥、雪吊り等）、園地及び園路や曲水、池、御亭等の維持・補修、石垣修復や池の浚渫などを実施して、庭園の保全・管理に万全を期しています。

(2)樹木等の保全対策

樹木を病虫害などから守り、良好な姿で維持していくため、様々な取り組みを行っています。

園内のマツとサクラについては、継続的に生育状況を観察し、樹木診断カルテを作成しており、病虫害の早期発見に努めるとともに、必要な樹木治療等を実施しています。

特に、マツに関しては、松くい虫被害を防止するため、必要最少限の薬剤の散布や

樹幹注入による予防対策を行っています。

また、園内全域の樹木を対象に、土壌改良等の活力向上対策を実施しています。

さらに、特別名木を中心に類似形状や同一遺伝子などの多様な後継木の育成にも取り組んでいます。

(3)他の庭園との広域交流

兼六園と並ぶ代表的な林泉回遊式大名庭園である偕楽園、後楽園や栗林公園などとの交流を図り、保全・管理や利用促進などの情報交換を行っています。

(4)利用促進

城と庭のおもてなし事業など、管理事務所主催のイベントをはじめ、観光戦略推進部と連携し、四季折々の魅力を発信する「四季物語（ライトアップ）」や加賀百万石ブランドを活かした様々なイベントを実施しています。

また、周辺文化施設との共通券の販売やJR西日本・東海との周遊セット券を企画するなど誘客促進施策を実施し、来園者の利便性とおもてなしの向上に努めています。

4 現状と課題

(1) 施設の利用促進及びサービス(満足度)向上について

- ・ 貴重な歴史的文化遺産である兼六園を、より良い姿で永く後世に引き継ぐため、文化財庭園としての保護を優先した運営をはじめ、樹木や工作物等について、一層、管理の充実が求められています。
- ・ また、観光戦略推進部と連携しながら、四季のライトアップをはじめ、名月やホテルの観賞会など文化財庭園に相応しい様々な自主事業を実施し、来園者数の拡大を図ってきたところではありますが、新幹線の金沢開業を機に、本県を代表する観光拠点として、観光振興の牽引役となる新たな魅力づくりを行う必要があります。
- ・ 外国人来園者への対応は、これまでに、案内サインの多言語表示やホームページの多言語化、レスポンスデザイン化※、8カ国語パンフレットの整備、さらには外国語ボランティアガイドの養成と配置、公衆無線LANの整備などを実施してきたところです。

今後、さらに外国人誘客の強化が必要とされる中、外国人向けパンフレットの充実など、引き続き、外国人の受け入れ環境を整備していく必要があります。

- ・ これまでもバリアフリーコースの設定や電動車いすの導入等のバリアフリー対策を講じてきたところではありますが、文化財庭園であるため、一般の公園とは異なり、その対策が十分に施せない側面があります。

しかしながら、高齢化社会の進展に即し、高齢者や体の不自由な方にも十分に庭園を

観賞していただくため、文化財庭園の魅力を損なわない範囲で、園路構造の改良や案内板の設置、電動車いすの増設、福祉サービスを実施する団体等との連携など、ハード・ソフト両面でのきめ細やかな対応が求められています。

- ・さらに、園内で唯一の直営施設である「時雨亭」についても、利用率の向上に向け、ホームページ等での施設PRをはじめ、茶会等の誘致や文化催事の開催等を進めていく必要があります。
- ・兼六園の管理・運営目標は、文化財庭園の保全、継承にあります。

そのため、これまでも有料化や石橋の通行廃止、園路の減幅化など、必要に応じて様々な対応を行ってきたところであり、今後とも、庭園の景観や価値など、保全、継承すべき本来の目的に支障を来すようであれば、入園制限や利便性を抑制せざるを得ないと考えています。

※レスポンスデザイン化・・・スマートフォンやタブレット端末など様々な種類の画面サイズに合わせて、自動的にページのデザインを最適化すること

(2)施設運営の効率化について

- ・既に、警備や料金徴収、清掃等管理業務については、民間への業務委託を実施し、施設運営の効率化を推進してきたところですが、光熱水費や印刷費など、一層の経費削減に努めていく必要があります。

5 中期経営目標

(1)中期経営目標

- ① 北陸新幹線金沢開業年の入園者数を維持し、更なる増加を図ります。
- ② 利用者アンケートによる満足度は、95%以上を維持します。
- ③ 一般財源投入額ゼロの運営を維持します。

(2)測定指標と目標値

測定指標	基準値 (H27)	中間目標値 (H32)	最終目標値 (H34)
① 入園者数	3,089千人	3,000千人	3,100千人
② 利用者アンケートによる満足度	100%	95%以上	95%以上
③ 利用者1人あたりの一般財源投入額	0円	0円	0円

6 目標達成に向けた具体的な取組内容

(1) 施設の利用促進及びサービス(満足度)向上に向けた取り組み

①施設の利用促進に向けた取り組み

- ・樹木の活力向上、後継木の育成、庭園施設の計画的改修など様々な保全対策を講じることにより、引き続き、文化財庭園の保護、継承に取り組めます。
- ・茶の湯文化の土壌が厚く、茶道に親しむ人の多い本県の特性を活かし、金沢城公園の「玉泉庵」とも連携し、地元はもとより県外や外国人にも人気がある「抹茶」をテーマにした自主事業を進め、「時雨亭」の利活用推進や来園者の増加に繋げていきます。
- ・四季折々の見どころを掲載するなど、既存ホームページの一層の充実を図り、来園の動機付けを高めるとともに、中国、台湾、韓国など外国人向けホームページの充実を図り、東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け観光戦略推進部と連携しながら、外国人誘客の推進を図っていきます。

②サービス（満足度）向上に向けた取り組み

- ・料金所や呈茶など、運営スタッフの接客研修を継続して実施し、案内やおもてなしの充実を図り、来園者への一層のサービス向上に努めていきます。
- ・他の大名庭園や文化財庭園との情報交換や交流を深め、より効果的な庭園の管理、運営や来園者サービスの向上に繋げていく取り組みを実施します。
- ・電動車いすや点字パンフレットの活用などにより高齢者や体の不自由な方への配慮に努めます。
- ・トイレ等施設の改修により、来園者へのおもてなし向上に努めます。

(2) 施設運営の効率化に向けた取り組み

- ・職員のエネルギー節減に関する意識を高め、光熱水費等、管理コストの縮減を図ります。
- ・既設照明のLED化を進め、電気使用量の削減を図ります。